

社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会
平成30年度 第1回 高齢者通所介護施設となりの家 運営推進会議
議事録

1. 日時 平成30年6月12日（火曜日）
開会 午後2時30分～ 閉会 午後2時56分

2. 場所 特別養護老人ホームこころの樹

3. 出席者 鈴木 さつよ（利用者家族代表）
佐藤 稲子（地域住民の代表者）
小野 聡子（市役所職員）

※委員総数5名中3名出席

高齢者通所介護施設となりの家
長谷川和子生活相談員

社会福祉協議会
遠藤常務理事 山本次長 曾根課長

欠席者 田中 京子（包括支援センター）

1. 開 会

2. あいさつ 遠藤常務

3. 議 事（要旨）

○現況報告

- ・4月から産休明けの職員が戻り、新体制でスタートしている。退職者

がいたり、常勤からパート職員へ移行した職員もいるが、利用者に迷惑をかけないように努めている。

- ・ 看護職員の退職があった。職員にとっても大きい出来事。排泄ケアに不安が残る。
- ・ 年間の計画を立てて創作活動している。季節に応じた壁画の作製、出来るところを活かした活動としている。
- ・ 家事活動、洗濯物たたみ、雑巾縫い、掃除、食器拭きなどは日常としている。
- ・ 最近、近隣に「わだつみ保育園」という施設ができた。たまたま社協で実習をした先生がおり、散歩中の園児が立ち寄った。利用者も散歩がてら訪問した。先日は北浜保育園園児が遊びにきた。
- ・ ドライブは七ヶ浜や松島、多賀城歴史博物館、あやめ園、加瀬沼へ行っている。新しいところでは魚市場の展望デッキへ行った。

○利用者状況

- ・ 男性 6 名、女性 14 名の計 20 名の利用者。男性の平均要介護度は 1.1。女性は 2.4。全体的には要介護 2 ほどになるが、認知症の 2 は、動ける認知症で一番手のかかるケースで、介護者はギブアップしてしまう。
- ・ 利用者は週 2～3 回の利用。中には 6 回利用の方もいる。限度額をオーバーする方も。
- ・ ほとんどがアルツハイマー型認知症。専門医を受診していないので分からない方もいる。
- ・
- ・
- ・

(武田所長)

市内ではどれくらいの若年性認知症患者がいるのか？ 今後もある可能性が高い。認知症デイも市内にとなりの家だけだ。

(鈴木運営推進委員)

具体的数字は把握していないが、そんなに多くないと思う。

(武田所長)

日々、勉強させてもらっている感じだ。

(遠藤 常務)

介護認定者の 6 割は認知症と言われている。3,000 名超の認定者で 1,600 名が認知症だった。

(武田 所長)

他の利用者は 80 代 90 代。その方々と同じ内容の介護サービスを提供するのもおかしい。認知症の進行を遅らせられるような内容を検討しなければならない。

(佐藤 運営推進委員)

どのような認知症患者でも受け入れているのか？

(武田 所長)

受け入れられる状況であれば、どんな方でも受け入れを拒んでいない。半年前に見学された時からの進行具合が著しく、徘徊が多くなっていき、何度も警察のお世話になり、家族も疲弊してしまった。包括センターからの相談があって利用開始となった。また、認知症であると独り暮らしは難しく、鈴木委員宅のように「ご家族あつての生活」になる。家族がなければ在宅サービス提供は困難だ。

(鈴木 運営推進委員)

今言ったことを今忘れるから大変。

(武田 所長)

鈴木委員がいないとご主人は生活ができない。

(鈴木 運営推進委員)

自分がいなかったら自宅では生活ができない。

(武田 所長)

となりの家からグループホームへの移行が多くなっている。あとは入院で利用中止となる場合が多い。悪化して結果的に入所となる。家族が介護疲れで施設入所となることも少なくない。今回、利用開始となった若年性認知症の方は、人間性が良い。仕事をしている感覚で他の利用者に接し、違和感なく過ごせている。

○年間計画による 12 月の行事について

- ・ 10 月に「地域に出かける」をテーマとして、ビック塩釜で食事と買

い物を楽しんだ。家族の参加もあった。普段は自分で財布から現金を出して買い物をする機会がないので、久しぶりに体験してもらった。食事は四六時中で楽しんだ。

- ・ 12/21～22、師走の慌ただしさを感じてもらえるようヨークベニマルへ買い物に行く企画をしている。

(鈴木運営推進委員)

近所だが、主人は行ったことがない。

(武田所長)

寒いので風邪など引かぬよう安全に出かけてきたい。

(佐藤運営推進委員)

車椅子の方はいるのか？

(武田所長)

車椅子の方は少ない。そのような状態になると、体力も落ち、入院となる場合が多い。現状では1名である。

(佐藤運営推進委員)

ビック塩釜は広くて歩行が大変だったのでは？

(武田所長)

普段は歩けている方も、そのような場所は危険が伴うので、車椅子対応へ変更する場合が多い。

(鈴木運営推進委員)

家の中は歩けても外に出ると難しい。少しでも歩かせるため、家の中を往復させている。

(武田所長)

でも94歳にしてはしっかりしていると思う。

(鈴木運営推進委員)

となりの家から帰宅すると一合弱の晩酌をする。柔らかくしたおかずも一緒に食べる。自分は病院の厨房で勤めた経験があり、それが調理に生きていると思う。おかげさまで良い施設に通えている。一日も休んでいない。自分に用事があるときも臨時通所をお願いしている。場合によっては、隣の奥様に鍵を預け、見てもらうようお願いする。

(武田 所長)

隣近所の付き合いも上手にされている印象。

(鈴木 運営推進委員)

周りがいい人ばかりで助けてもらっている。

(遠藤 常務)

もの盗られ妄想をする利用者はいるか？

(武田 所長)

いる。まず職員が疑われる。あとはお嫁さん。物を見えるところに必ず置いておき、本人に見つけてもらうように誘導している。

4. 事務連絡 次回は 12 月頃 (日程が決まり次第、通知)

5. 閉 会